

正泉寺遺跡 発掘だより

第12号（令和8年度第3号） 2026.9.24

8月・9月の調査

本年度の発掘調査も折り返しを迎えました。梅雨明け以降、熱中症警戒アラートが発令される日が増えましたが、休憩時間を長めにとったり、屋内で遺物洗浄を行ったりすることで暑さを凌いでいます。9月からは3名のインターン生が参加し、一緒に遺構の調査を行っています。



遺物洗浄の様子

6区の調査が終了しました

6区の発掘調査は8月をもって終了しました。6区の上面では古墳時代から奈良・平安時代の^{たてあな}竪穴建物跡、^{どこう}土坑がみつかりました。下面では、弥生時代中期～後期の流路跡や、縄文時代中期後半の竪穴建物跡8軒、土坑65基がみつかりました。縄文時代の遺構は、正泉寺遺跡では初めての発見となります。

流路跡の埋土中からは、弥生土器の^{かめ}甕、壺、打製石斧、磨製石斧などの遺物が多量に出土しました。竪穴建物跡（SB201）からは縄文土器の破片が多く出土し、中央部には炉跡が設置されていました。また、SB201の北側に位置する土坑（SK574）からは、縄文時代の^{ふかばち}深鉢が出土しました。



竪穴建物跡（SB201）



SK574の深鉢



SB201の炉跡

9区の調査のようす

7月から始まった9区の調査では、古代の竪穴建物跡がみつかり、カマドを伴う建物跡も確認しています。

昨年度調査した7区と同様に、遺構が著しく重なっていると考えられます。引き続き検出作業を行いつつ、遺構の調査を行っていきます。



9区の調査風景

現地説明会を行いました

8月22日（土）に現地説明会を行いました。厳しい暑さの中にも関わらず、55名の方に参加していただきました。

当日は6区と9区で調査している遺構の説明を行い、また本年度の調査で出土した遺物（縄文時代から奈良・平安時代）を展示しました。参加者の方からは「遺構が切りあう（重なっている）とは、どのような状態なのか」、「弥生時代のこの地に人々はいたのか」などの質問が寄せられ、遺跡に高い関心を持たれていることを実感しました。



遺構説明の様子



遺物展示の様子



調査区域内は、危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようお願いします。調査中であれば、ご説明いたしますので、お気軽にお声がけください。

座光寺上郷道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
飯田市正泉寺遺跡 発掘だより第12号（令和8年度第3号）
長野県埋蔵文化財センター 飯田支所
〒395-0151 飯田市北方297-5
電 話：0265-49-0736
メール：maibun@naganobunka.or.jp
H P：<https://naganomaibun.or.jp/>
担 当：丸山/青野/長谷川